



特別
千12
3608



027



ア
少
三

8



春

うき草

^上

 所ハ草乃瓦上杉松も年少りそ
 ぞ乃枝ももきく松や木杉下け行流
 流盛りのくた流さの乃らまう〜
 乃枝心押まてり生のま流さまも久
 しまぬはうふ〜



本^一枝^一め^一春^二雨^二後^二と^一も^一程^一き^一か^一ら^一
 け^一乃^一ん^一の^一雪^二乃^二下^二あ^一り^一又^一葉^一を^一け^一り^一
 衆^一日^一何^一の^一法^一ま^一く^一春^一を^一見^一り^一
 り^一あ^一ら^一ぬ^一三^一芳^一聖^一堂^一山^一も^一ひ^一ら^一て^一白^一
 雪^一添^一き^一し^一一^一程^一さ^一ら^一と^一あ^一れ^一く^一

老松

松^一の^一陰^一最^一も^一茂^一け^一り^一昔^一々^一と^一河^一一^一

竹^一乃^一み^一ら^一ま^一り^一も^一雲^一す^一あ^一る^一や^一ら^一
 厚^一く^一雨^一の^一雪^一の^一少^一く^一え^一を^一も^一た^一け^一
 お^一一^一の^一法^一ま^一く^一里^一も^一あ^一り^一や^一
 け^一さ^一と^一も^一梅^一乃^一花^一の^一ま^一り^一さ^一ら^一や^一
 又^一梅^一乃^一花^一の^一ま^一り^一さ^一ら^一や^一

新雪

な^一ま^一ら^一な^一ら^一は^一く^一や^一け^一り^一あ^一ら^一な^一ら^一

二一
今はもあへる白ひすまゝのや梅乃
二二
風枝をたすこぬ代もやけの
二三
下二二
津乃國のふもみ書一
二四
由たのたふを乃ため
二五
みらひ河よたき欠た種く

名を

上
ひをわせううこ世乃けい懐木のる

一
ふも新も白ふや物はすた乃光も
二
あま忍ゆる神おけゆよの迄あり
三
ねも本すさ種のをえたを枝も忍
四
くれま井乃を津乃車めと志目懐
五
たうえや水乃けい々く

あし山

上
さあめあ種や九重乃内外のよ

ソ歌車ふらしもりに見らるひは
けり雲乃阿山と那さり
おゆる白波もち海と見え兼乃
海さるはひさし児業さうふく

竹生海

みこ海おがまうすくろ浦山
かろく海道の志實乃ちやこ花等の

世うなる山さくろ乃入
江乃ふなまろひつき漕よせり事
とつむく

依ほ山

たまふたつと家と一の路乃を
あまよひ乃長ぬあうすふ糸乃
こたきも天候日乃と東きいろり

六二二
深き一才候一絹乃さるこあり
糸も也雲男は白ぬる世く

く襦衣

上
大和も候しきぬのいやおんを
しまし好候みらかりきあはれ
くきのし形まほもあしりあはれ乃
ころんとくあをこたくむしきた候

袖もたくな候のさしりふく

志しひれ

上
しれさるふひく候山風候りあわ
漕舟のひ乃阿とミ甚うはほ乃ま
半友をさやのひく浮わると候りあ
ころる裁袖乃厚まこつもたわり免小
付くたりしきり候く

田村

上

志海多へ入る雲もひきも埋もて
 何連さくくみ木すゑるも見深きは
 八重ひとへ舞ふあく乃ん光りる深
 う四方乃山方免を乃つと
 夕心見世うけしきる影く

八嶋

上

為乃いやしもたぬのう海雲深
 伸りや海土乃を乃の乃ほのく
 刃くく残るゆふと飛ま風ま
 也葉あり虫や心をさるふく

くま

上

眼くくく下隈山乃春の赤く花
 うあハるみあく大隈山伏乃あけ

ふたつ
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

をー酒

^上三
らわもせす
四方乃常ともひ
なほなほ
みら
たひな

みら
たひな

同

^上三
おを
樓子
衆に
やひ

にーおぬれく

み橋

上三十一
はも木あーみ橋法師の清む乃ゆふ
く襦ろー袖うらりーひる清とをわ
三十一
ありのすくけ乃時もあまわ川風浪
二二
花ふ家渡を船りー浪のわろーゆふ
下
来乃道はく望路く山伏旅くろくわ

二二
ゆふとも清むをと城くて六甲くハ
ゆのせ新よふ

くー下て物

上三十一
花さくハ岩せとひりー山里乃文ら
一
衆さあさるくー舞る乃屋まおうす
三二
桜まわち枝折きーかへまおむくも
下よりーさうたはくく木けけおぬ

のこころをくくしぬをたすめむ

敷物あらし

上
ま乃入江の物わすけ
ひつみ山もつねも
下
波たらし雲も流し
ひげ乃むひ
ぬくひをくぬ

伝系

上
思ふに侍
ひと望な
下
海へ海
とりく
くは乃

た乃にありある中乃酒之せりふ

酒

上
凡そりの雲乃よき波大はつとんそ
世の人もこの海をまへ志を
世なるは河もも東よ船風乃まはつ
道盤乃よ心々り浪を音あきあき
あき小流是人あかた小あつねく

時不動

上
さくたえや三井能古さ来り見も
世りなるは遠花もさつた月いとほ
あき春の秋乃鐘りのわこころあか
たは面白おありさやれも妙な
法乃よ心可をすまはる程やく

りふ

上
君とすむ程たよありし山はくは
残るるもの光はさきもすれ下
明松乃女 友心守 くに乃乃
総とくはなはのしよはつね
下
章を以たきと里を廻りりわ

うら

上
まこよ阿由三保くすふを交はぬ

三
櫻乃雪浪を又とろんでむし
二
し那をたきたる藤乃と阿と
一
を家おりきりぬ

志

上
みらハ運をせは乃人自向
ひと枝も乃玉以一糸の功力を交々
阿のかたよハ折一友春乃雪

二二、一、元一、下三三、一、一、元二、一、一、
 在子乃之松も遊もく洞庭よあ〜ぬ
 二二、一、元一、一、元一、一、元一、一、元一、一、
 月之けもあもま月海さゆふのり
 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 那屋ま乃春のいふ見心く〜
 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、

夏

上言
 二二、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 交字乃と志げとせたまか〜磨乃乃
 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 みらたる時な神也山風も冷下り得
 下三三、元一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 梢並りりぬあが歌ま流も立れ〜
 下二二、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 秋う〜今時代も遊盤乃葉と朴く

遊筆

上言
 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 かり〜ぬやひむ秋光山乃涼〜
 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、

小越すまひをのつゝ空めはく
たおも志海や或ハ詩哥乃女の
うこの又も糸竹のしん何やをふす
水水乃多ま清きふも色もうの
あわあゝ面白浪池水やな

野

上
こたゝしお夢も縁よまをけ屋

三
九乃素能楯も中初音ありり郭公飛
過りてに初やうまひをわ
むる雨乃雲もけろふ又附日なは
あきさおお川深くまのともけを疎
か

源六太夫

上
時ハ三伏乃交先日浪あなた乃を初

死す時きよひももめたら祿
と海老たらしめやめさぬく

つゆ物ね

人乃こころハ美深乃福うひ也可交
こ物も可交山陰ハのり能河波乳乃
もを能福も交本を疎しよろろ美
た神也あまきめやあひを等下り可

世すひ飯ね乃こ道の露能明を深屋
新よりあみ深克めりあ神也慈福深
あハのりるまああち美な也く

清隆

こ唐屋中も人目を傳ひ世その高深
極ほのすくよ明風乃季をもたそひ
思ひ祿よりあく乃こま屋しあた神

三、ハ、
 二、ハ、
 一、ハ、
 月乃軟たくともなまのー乃ワ
 郭公ハ後ひのくく時音外く

解

松尾

上三、
 虫見ーハ花乃くや、お雲のひ
 たら、目敷ら福里すあくしらも、
 大高飲のう思しぬ月懐物取
 ゆきくぬーけま移人乃あまゆた
 ありくくろく

雲の如く

上

もたひ乃竹葉もけけやみちりて重
ぬんそわの梅もさ乃萩花も林葉も
秋を敬なむりや志ん乃七賢のふみ
しひ望うたと望むるもそ何々ひ
たぐけあすりのこ秋望くめや冬見
清茶を煮て乃為すりきくれ世

道の寺

上

神さしあふまの流八十のし望千代乃秋
兼子のさねて下等お露乃あふ
なつてつて神を流るへたすし
会さるよよ水とさ遠海さちうひハ
あふていやく

玉井

上

たる衆心乃らをこころに
 倉も早わあき月乃は
 枝を傳ふ神とにも
 玉井のありま誓わハ
 也

弓ハ幡

上

松さふ枝もは
 清代も久學先月
 乃男山久も

下
 さむけたけり
 祈るあり神小歩
 とも

合札

上

あかによりな
 すゑく
 大らら山乃
 けたたの
 雲乃上

下
玉殿を月も光やこのへきへき

とほろ

上
雪や乃にけもさう来ぬ果年月は
虫をむくの秋をらんし海へ松乃
風まきもその方お上とくんそさう
志原ふ神の袖をせなまうえ儀
解乃ゆふ癒うふ

めする事

上
ふまめ衆うけをいふう志海
免たぐやむもふさめ事とりけあ
ツ取乃出りたき侍老を誓わす
のび耶那のうわ杭むめいひるう遠
衣を乃ためも誠ありへしやく

伯母業

言
し、と、も、魁、め、く、徳、伊、方、な、
伯、母、捨、山、乃、父、く、れ、は、松、も、く、
ま、り、心、本、お、み、こ、り、も、
成、乃、り、や、り、ろ、く、り、ひ、と、く、
芳、も、立、浮、わ、風、す、き、
さ、ひ、ふ、山、乃、り、き、く、

同

言
さ、ら、は、更、た、る、め、亭、再、乃、く、
あ、は、た、ま、く、び、く、た、く、持、
福、乃、も、を、く、く、く、
お、て、面、を、ま、く、く、立、な、乃、
は、く、く、く、く、く、く、く、
な、く、く、く、く、く、く、く、
等、の、取、り、く、く、く、く、く、

あめい

言
 三年秋乃夏なははうきさきそほ
 覚のせらむむひてんかよ珠首ハ
 らもわ阿とも思へげのや何ん候
 ありき世ありきはソのわ人乃そ
 聖
 思なわわけるたりいふ

しむせよ

言
 今も祈らすしをも神慮まも
 月川種まほまぬ乃月ハ思へ
 志して福へひもろく大流り
 今ハあまなまろくこのや
 すも大流あまそと形なまわく

西山の雲をくも得東ありきたる
 為乃あーりやくあや晴て月小
 なる世はーやとく物も恒りー
 松崎もーろーく松人乃在あ哉
 さ海すふとー

那乃こや

乃こやのりも本かー秋更こ

かりー世の秋をまし海わ松も入
 なる人ななよとて思ふ乃くも物も
 衆るーもあーぬわ物を不ゆふ
 くの海さうまーとかな物

平野原の町

月夜とも心にー物雲井百ー
 むかうら山乃原まりのもーるは

かはらもとのやーのくまや
ふやふねのひはらおき乃山月
はら川原のこまり人たき
やー

お祭猪

下もえちね乃男の露やうめはら
お乃りーはき乃ふじわろあ
た

これま井をふれくみ山原の寶也
谷河の風乃けたうー
流もやうぬもえちを流しハ
中たしむとまは本乃およま
とりお梅袋はうづらく体と給んや

お祭猪

言て行秋乃たえたのむし時ふ
お

三
川乃く懐きひくも人も見ぬ
乃於ほ中もなれうまきあひのちを
たえはふま出たたりぬ

前集

上
ま神子く懐えもうふしき松風を
たし寸履若乃立たきくあつる雲
きひききききききききききき

きくもひきうう懐くまも物す
ゆふ通やなあも乃する懐み
きくもひきうう懐くまも物す
ゆふ通やなあも乃する懐み

しを

上
見ぬいろ乃あつたや法乃花
うめはち心い

二一
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

おき原

上
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

おせ

上
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

こゝろ
ひょうごう
秋をも
秋をも
替らぬ
たの

みらり

受も
耐世

月のか
志海
み方
淡路
夏

阿漭

も乃
も乃

志保えよまー海志があーおす急
川志保るまーゆべ乃まよまの海乃
岩屋飛かよよと可神とまろく
月於るもろも乃も備る海乃
けの住居のふく

三輪

上
飲さ貴ぶ意乃ら朝乃ま清のせ赤

く神木盛くまーく海乃おも門ハ
すくくやとち海くす下根のあきも
昔乃少きまー海乃た家乃山
すん乃さひー志

こか

上
せめくやーりーあく情世とる記
なす碧はを乃くく秋風乃たく

下、下、下、
も、や、く

大社

言、神、代、を、木、の、ひ、か、雲、乃、も、り、一、
不、心、一、一、
下、祿、ま、る、動、ら、ぬ、國、う、久、一、
と、祿、ま、り、も、あ、う、く、あ、り、行、本、末、く、わ、
く、ま、り、ま、た、う、保、山、を、此、所、と、あ、冬、

た、ら、り、き、ぬ、く

野田

上、米、も、中、た、ま、り、又、野、田、川、の、一、
を、置、の、く、神、女、月、形、あ、は、り、下、一、
ま、り、あ、み、祭、を、と、傳、る、う、以、こ、を、わ、代、
情、な、や、中、た、ま、を、流、す、人、の、一、
ふ、や、さ、あ、ま、た、よ、あ、ま、し、ま、を、傳、あ、を

さあ、い、た、く、く、雪、を、梯、に、舞、ま、は、な、さ、す、
ゆ、よ、を、り、く、ま、ず、

至家

上
い、あ、る、も、留、ち、む、し、一、時、毎、う、心、
す、え、り、一、方、の、人、は、あ、を、れ、を、一、家、も、
あ、め、乃、を、お、せ、ま、さ、め、ふ、や、さ、し、人、乃、
お、ち、の、女、一、く、神、少、家、ま、り、一、の、之、留、

三、い、ふ、も、ま、り、ま、さ、な、ま、さ、さ、さ、さ、
乃、い、い、せ、し、あ、ま、む、く、お、お、ら、ん、ら、り、も、
く、ま、く、お、物、す、こ、お、り、也、さ、わ、く、

ついでに

上
有、上、乃、是、し、く、人、也、お、は、月、を、く、く、ふ、り、
権、頭、先、集、り、も、不、善、お、し、眼、を、お、折、
ゆ、い、の、し、く、可、あ、た、や、山、ひ、と、お、さ、も、

上言
 杉以をたよ書けしきりりわ保
 人ハ乃より寸記也なるも
 是壽命も道下し泉うめく大うわ
 けのけのやまのけのまら見すめ保
 流代りやしく流連のす急はる川羅
 まえ遊たのる位る嶺ささく

志賀

上言
 入伊の方も志し波乃谷於河幸雨也
 乃に岡えそ松乃風も明り
 安屋まはる半日於客大屋し
 力於上りし神さあ

春日孫神

上言
 神乃代より里於す急うり々すめ依水

下
ちてーま唐人乃くは奥海
手懐くやこたれ乃むお祭の
秋たのむひて心ありぬん

梅ありえ

上
或ハ笑る同は名す一不潔佛と
一なは理をきく人本佛をす
可なり只頼めさおもし

火乃けもりけーたる
人乃来はたわまかうは見え
とあますし

うまさ船

上
月日交譲とり糸乃祿
く那ひなハれこるみ
縄方、包や毒をも祈らま

舟橋

上
 先乃世能むらひの儘に生きたまふ
 うらるるまけもいふもか能生死法
 海を渡るゝふか舟をけらるるや
 二河を流すハるまうらうは十徳
 さわかー 渡乃橋を渡りや
 と教

上

りーせしはおもひんそーと
 祢乃庵このうけり生きたまふ
 志もせしおもふうらまきとにきぬ
 しわらおもひあれたるなま遊遊乃
 屋乃乃流乃こまうまう三たれく

船

上
 さしこまるりわうはほ船字つはら

初歌

上言

だきも^レま^レの^レ神^ノれ^レこ^ノな^レけ^レま^レく^レま^レ
 か^レみ^レけ^レみ^レな^レは^レ内^ノ子^ノ乃^レ内^ノり^レく^レ保^レ
 ぬ^レま^レも^レ冬^ノを^レ姫^ノ乃^レな^レし^レん^レけ^レま^レん^レ
 多^レき^レま^レい^レ種^ノま^レを^レ海^ノ士^ノお^レり^レ海^ノり^レお^レ露^レ
 程^も意^こ小^なと^りあ^はせ^し世^く

見^レり^レの

上言

海^魚や^もう^し乃^うも^程ち^のく^程
 川^流も^みし^えた^るり^やと^もお^な千^一
 手^仲の^りも^めな^むき^た原^や虫^秋原^一
 雲^井お^るも^しめ^えぬ^たの^を章^乃
 も^一乃^因り^をと^し見^し海^も
 雲^のも^ち

初歌

川隈もた紙く紙く〜
 なり〜海乃〜
 か〜夕依初瀬乃すハ
 け〜や巻小船初瀬舟山
 讀〜友さ共た〜
 あ〜り〜き〜

湯は物狂

〜
 讀〜霧の字村や昔乃
 乃〜
 ハ〜
 湯〜
 湯〜

あ〜り〜

上言、
 寸通羅まけそ所、
 際行弱乃、
 上もふきさる、
 上乃のわ、
 あり来くる、
 何代男、

諸義

格取

上言、
 ともや、
 白露乃、
 朝ハ、
 向々、
 荷葉、

上地

格上小上垣上千上能上た上ま上く上交上折上を上え上く上わ
 と上夕上雪上乃上月上既上る上お上垣上乃上新上なり上
下あ下の下ぬ下も下け下も下け下本下お下八下重下辨下
 も下い下ろ下を下る下く下ふ下り下程下不下重下順下乾下
 乃下交下能下思下字下忘下も下た下わ下ふ下災下さ下く下く下
上す上う上一上ハ上強上を上ぬ上を上き上く上も上ふ上き上合上
 せ上す上の上神上お上ほ上り上り上居上ふ上新上強上を上く上

野

其上も上月上能上お上ほ上り上く上如上き上語上と上も上り上
 月上交上乃上月上を上以上き上や上方上る上欠上の上所上也上
 月上交上乃上月上を上以上き上や上方上る上欠上の上所上也上
 乃上月上を上以上き上や上方上る上欠上の上所上也上

上地

波上や上心上も上い上く上た上よ上き上實上友上乃上川上波上能上
 水上と上ハ上い上ろ上ふ上り上乃上能上る上く上也上
 最上初上ま上の上波上の上能上志上乃上交上く上所上也上

^上流連は^一玉^二浪音^三あ^四る^五も^六や^七本^八祢
^上川^二水^三も^四才^五く^六み^七し^八一^九大^十井^{十一}河^{十二}夫^{十三}も
^上雨^二と^三あ^四る^五乃^六石^七の^八火^九不^十勢
^上た^二家^三才^四免^五も^六呂^七も^八也^九流^十為^{十一}り^{十二}才^{十三}浪^{十四}湫
^上河^二乃^三之^四け^五く^六備^七え^八た^九り^十の^{十一}浪^{十二}源^{十三}雪^{十四}と^{十五}け
^上ぬ^二も^三大^四船^五月^六ま^七ら^八ぬ^九も^十く^{十一}備^{十二}ふ^{十三}も
^上夕^二下^三也^四才^五羽^六乃^七大^八き^九才^十免^{十一}ハ^{十二}う^{十三}ル^{十四}々

^上乃^二上^三也^四才^五羽^六乃^七大^八き^九才^十免^{十一}ハ^{十二}う^{十三}ル^{十四}々
^上と^二備^三も^四お^五あ^六一^七程^八な^九さ^十り^{十一}ふ^{十二}乃^{十三}日^{十四}夜
^上乃^二う^三備^四も^五も^六福^七乃^八ふ^九け^十も^{十一}あ^{十二}重
^上才^二濁^三な^四く^五う^六水^七結^八ぬ^九乃^十祢^{十一}の^{十二}う^{十三}も
^上夕^二下^三也^四才^五羽^六乃^七大^八き^九才^十免^{十一}ハ^{十二}う^{十三}ル^{十四}々

もとのた

まゝの初雪乃とるの影も人さびしきなり
 大ねも心うふくせ 春たたら朝男
 急流雪んもこの古年乃心地よ
 中へ 杉のしほとあり 少歳感乃
 わふはまふと 古熟ふ神すてすの
 またとー 夏の子と秋の心
 せ春乃と海 ける乃聖なり

十人建はるよとて一人もそのむら
 さた乃ぬゆけとー 實心遊うの
 乃なをとめいゆとぬりー 女た
 たしー 依聖乃くくたらしめさく
 見たりおともぬなりす ちやう
 あむ乃ふはふ なるはふ 白こ
 字もるぬ乃雪なり 可まきくはみり

上巻し
楓う友立条河うわふ今又秋乃霜を
大徳祢ハ日新乃糸結のあや
幾一う道はぬたうまう人屋うん
上巻、
實友乃うお道うかて思しハ
九糸車火うう象け糸さううと成
さうわう道成もううひとむか交
上巻、
此乃雪 種り出る秋乃いと持

月うう友を叶付ぬん 今う夫賤の
とふいや結 糸寺心乃ら結は連奈
上巻、
さう ふうさう乃決まふ依を思り
あう一深ううちやり音を乃う獨り
あまのあけく

今一は

上巻し
笑山腰のうううあまう葉う友人也

見ぬるもさるあまのけの勢の影

こゝろ志くまは逆方乃姿り

花乃友不別てせしハ文くま

まやまー神老人乃こゝろその本男

美乃枝 せりく馬やこゝろあま

かきー袖を引ひこま乃もあみ

もけけあまに 寄き翁乃先見

上巻

一車乃ソ那のたろえをかき

決まてろろあひさあひとり

乃ろくあま乃天も美も

急くあまの神鼻うつあゆ

うけろふひと遠たも新河のとみ

伊ころせりらわく

井法

了もろひふさかしく柳一はり重て
や録はる志く社まゝりせしむ
雪のぬもふきこるもむをたまへや
あまふとまけハる思後やなてて人
はををばうふと成 上こり得久し
記乃以於 上 情息はる 我ありや
下月 けふ雪の秋ハ凡葉依木の男は夕月

かきうすのたふ木乃下依思本乃る
居乃ニさしにさのくもてうせよ
りわ何とたちらくれうせよあむり

リもえ

古義
あまの物可く来風乃音すや依竹のさ
何屋しせハあめみ姿を見せ給へ喜
根を深くとし 上 屋乃乃端依

乃乃人々々々一備さばはははははは

あはれんまはははははははははははははははは

鹿をゆくはははははははははははははははは

大子のあはははははははははははははははは

鹿ハあはははははははははははははははは

すむ世を字治山と人々りふななり

ひとあはははははははははははははははは

射々志々はははははははははははははははは

あは乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

きせの林乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ア也 是はみしたるうはははははははははははは

女に橋の小路のさうた 転りひり

みしたあはははははははははははははははは

法を説くはははははははははははははははは

とて

とて

早詞

早

早

早

巻二一 二六 一 一 一 二 二 一 一 一 一 一 一

蒼子舟を渡しんたひ給く 詞 葉も

宜もお家おはたかたハ餘の人も人

替道新よりア下り小津陸下も又渡日

里丸 船 舟待えたる旅行乃嘗 り 海

折にもを江の海乃 矢橋をえたる

舟なると夫ハ旅人儀とる り 舟

と折も又浮世と知るる楽舟はく

ほろ神ぬ袖のこま 連棹お見列ぬ人

た神やのわかひと り ま り 浦を渡

あひをいりりて悟せ り ぶ り しく

めきれ り しく

同

早詞

心うに船歌殿 り へ り なるかひみし

浮わたる り 山は り なるかひみし り なる

いしき しき 土質人必はみるに後水君に
信くをいしき しき 先向ひり

あ大原を大山乃みしは比叡山ん

しき 土質いしきいしきいしきいしき

藤下山王三十一社立りわたる岩る

八王子穴津坂本乃人家まを磯才く

見くく人 早 七てあは比叡山ハ五株

しき いしきいしきいしきいしきいしき

中く乃るる道我山を五株は鬼門を

まのりを恵方を梯ふりいなる 上 寸一佛

糸の尻と中は持回路乃山をいしき

と神道又天台山と号はり しき 大む

乃四明のわを福せり傳授大師桓

我て皇とはいしきいしきいしき

年中の御宇創りのたらしむる御一
始巻二一松本御堂乃山止まぐ残心
あぐ思一一山 相く大もや御侍立
はり一と儀堂辱らんも何れさうも
是乃ゆに之儀の 侍人ふも小
何こ儀さすう一木海に陰乃みしん
高き天宮乃侍を取え一と儀さす

御入ん早 之殺や一切成生忠を佛
性必来也きく時ハも此羅の力さも
相早 一うこさうん 保乃しもく仏
成生通はる方乃於ハ御侍もとま交
へ一一一一一一一一一一佛乗法 養もハ
手御乃指をたすへ 禁止止親乃海
をたぐ通 又戒定慧乃三学を思を

三塔と名付れ 人は又 一念三千
此機を説く 三千人乃 京波代を等
四融乃く 里も思わ 月於横川も
みしたわ 也板さる ぶ取とる あり波
也立實幸 場乃一 津松七 社男神 興徳
内幸於く すす急 ありさ 波乃
あ神棹こ 是は程 子をか 置し其の

ひ乃字く 浪のあも 津於森 ちのく
なまの 説も 在まき 波は 首なり
乃山さく ば喜 憂まを 面け けも交
屋ま 於福 運形 也何 在 海乃 築少 波
立り 一も 一も 一も 一も 一も 一も
のま せよ 一も 一も 一も 一も 一も
りや くと 一も 一も 一も 一も 一も

あまのこころ〜 睦園寸版々あるをわづら

禁の

サシ
實心覚悟〜 ま〜に世に友も来て
字本〜あり〜 堂ハPヤサ時を忘れ
ソ取乃このほく花とも中辱〜ん荒
字は〜 一 儀柱のやな ふうく
清偽を諒ふし形〜 一に体〜ひ終ひ

星詩

人共 是ハ形因一見乃名〜ん
柱の儀面白き〜 祿めて人相愛をば
ゆ〜と〜 是〜 三河國ハ橋
と〜柱の乃名は〜ん〜んさすうに
この禁あり〜 乃名は〜ん〜ん
あ〜ん〜ん〜ん 志が〜ん〜ん
な〜ん〜ん乃名は〜ん〜ん ち〜ん〜ん

目録

うゝへたまひのしん中かえり
給へんしんかふ給人もな

宜く三河西八橋は杜若ハ古哥も

讀まけあとり何連りあ人あはる

蒸やん兼度あぢんこ詩伊勢物語

小川もくくをハ橋と云けるを水

初川乃くもて眼もハ橋をハ渡さぬ

あわきの原に杜若乃いやおもはれ

くまうたたるを或人杜若とり小

虫海一を白浪のみをなまここひ給

心をく丸といひは神ハたれくも

交けし列り一はま一あはハこ詩あ

ぬあ給なり一もおもふ是立魚乃葉あ

のほりあはを讀一哥あり

あゝ面白や板ハ片束乃まづの園く
まゝも葉平ハととわけひけありの

子あたゝしよ回るりなご唐ハ移依

あゝ乃にか程しもごろ乃奥海さ

名はくく乃みらすし 園くはを

おかけせせとり且象心乃末かり

おもひ涙里しハ橋旁 三河乃沢地

杜の ちをへく ちあめま松をー也

おもひ乃とを世に残しや 如しハ

昔小葉葉あ花とも 飛見依美を

ひまごころ ちあまりし 依松なへた

てう杜美く 依海乃水の浅く

勢わし一人もハ橋乃くもてし物也

おもひるも今とて了も松人小むしを

大可一々一こ一ひ一給一ん

と物一

早一詩

伊うに射敵みし海わたり山こハ皆

名はるるそん楚河交りん 早 詩

こふ名はるる山は我祿信んをしん

中込ア 早 まの流あまにみしたるハ

青羽山んり 早 市世人お祿は我音羽

山んり 早 青羽山をそふまへゆに相

坂乃関男こなたよ也讀之於ハあ

さる山もほやちりあは我んさ

信乃し〜〜冥姑こ眼こにとハるん

たきせあなたよ何もさハおさるる信

山ハ音羽乃峯小隠さる 早 詩

みしぬなわ 早 相くをよは乃巖

なや先一つき二屋三志四屏五を六ま七す八心九し一〇
も一清二や三田四子五深六き七東八く九け一〇の一一志一二ほ一三
こ一物二も三と四め五は六つ七ま八を九も一〇袖一一は一二若一三檀一四乃一五
汗一よ二こ三ろ四波五乃六ら七る八留九の一〇を一一人一二と一三み一四し一五
佛一さ二り三し四御五景六わ七ふ八く九と一〇ま一一幾一二も一三て一四結一五
も一思二え三に四あ五わ六に七ら八わ九結一〇換一一も一二見一三を一四す一五
な一ま二り三に四あ五ら六り七

平教養の町

あ一た二と三林四あ五り六瓦七巧八人九に一〇志一一と一二乃一三く一四
け一た二る三も四の五ま六け七た八く九も一〇佛一一并一二と一三
性一好二う三と四は五ま六ま七あ八ま九の一〇く一一こ一二た一三ら一四
乃一幾二の三体四の五は六る七体八こ九ら一〇佛一一并一二と一三
性一遠二か三た四し五り六あ七し八心九八一〇宣一一へ一二と一三も一四
是一程二の三又四字五も六み七し八寸九法一〇さ一一め一二形一三も一四

たぐく朽木とこころみしたき

孤峰山乃くちまろや華道しよは

隠道ありいりむや仏教の業さるは

木ふとりきりし乃ふりぬて

それも賤しき理本を執すこゝろは花

乃まゝの世にも向ふなまのなるは

しや相仏并たう通に理道を以て

以上方元

きよき手は深い金剛薩埵りかにおぼ

しん三才形哉をこふひこまふ

行ひぬりるるらをりて地水

火風空立神立福小入乃神なり

ふへさるるるるる飛ハる連示た

くはすともうら功徳を替成

相うまはのましくハ女等に

シテ詞

詞

早

早

平如遠水報三悪は 一念起善は
心まもりてかをも感へま 善根
いあしれと浮世をいひぬ
海の世をもしほし 志をこころ
心とく ころあまを神ハこころ
佛性を志ししめ 佛性と立
まはるやうなまをいひしる

はなと礼をしぬさる愛たり
やも伏たりは平如安我もやすむ
うれを吹流しを
送縁也此字のあはれ
親音乃慈悲 万むとく
又殊乃智慧 あくん
苦もわ 寂愍とりふも 善根

あり 善哉 へ あり 可
 四鏡 善哉 善哉 善哉
 物あり時ハ仏も成生も有たやあり
 取とも重くち能え夫を救ふ事為は
 方便ハ海さ誓ひの教なりを待せよ
 える世ふ里とほむアと祿すは小
 尸さば誠よはと進法人なる里とを

傍ハかへを地示はれ々三座礼
 給くを 我月計時ちく城之方紙
 たらふさる方を讀極果の中なるハ
 善哉あり 免るもはなまふは
 くるくありふ 善哉あり 徳徳の
 九うけやく

南無阿弥陀仏

と新ハ兼及たる東居居士と今河原
 以らしむる女中や一照敷睡閑乃人
 へき世 一詩 志と何たる一き同るうふ
 睡すと心持ハ兼及ハ三多目亦乃松
竟三一一三三三ト
 男ふ神々柳は疎美ハと神々并あ
一一一一一
 面白乃世のうききやな 一詩 あらたも
 志持乃答やん極之乃格えりうたな成

人乃々行けりたうり一うきい
 是は先師自然居士のは法界菩薩乃功
 力をもつて縁一竹ひ一橋なまは
田井
 六又か様子ひくむろふり 一一二二 相一東
二二二二一一一詩
 岸西岸居士はは里ハゆく女中あり
 人乃父母を以て縁一法界衆々也
一詩
 舟行一舟事一舟行一舟事一舟

来ははもふは神も出家とりよふ

理もあまし出家あり神も髪扱も

あし可長を墨し深もせらたくをの

つゝ道し以はく々 善をんそも

すまの 智を捨了も 累たし以

あり小ふ建 志とる海わる白河

くは依橋ハ あり みのーは

東屋西岸ハ柳隈のなるときた

海くとも南社小枝乃柳おソ取ひ

く家のわお一すちふ流する男橋

才飛えひくめにゆわはく乃岸に

心くわ給ん也





